

大阪ドイツ文化センター 開設50周年にあたり

ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテは、18世紀、ドイツのフランクフルトに生まれ、詩人、文豪、科学者として多彩な才能を発揮し、ドイツのみならず世界中の人たちに多大な影響を与えてきました。彼の偉業は詩や小説、戯曲といった文学分野だけではなく、植物学、解剖学、地質学、形態学、光学といった自然科学にも及びます。

ゲーテの名前を冠するGoethe-Institut Osaka(大阪ドイツ文化センター)は、今年開設50周年を迎えます。この節目の年を記念して、演劇公演やワークショップ、レクチャー、写真展、演奏会など多角的にゲーテにアプローチし、その偉業の数々をたどる企画「再発見! ゲーテ Goethe, Neu Entdecken!」を立ち上げました。その第1弾となる本演劇ワークショップでは、レクチャーとブレインストーミングという形で、演劇人、ゲーテを知る人、知らない人すべての参加者にゲーテの魅力を知らせていただくことを目的としています。

「世界市民」と呼ばれたゲーテは、旅を愛し、未知の文化や人、言葉、植物へのあくなき好奇心と探究心をもって自身の世界をひろげました。ゲーテ・インスティテュートの活動原点もまた、異文化交流によって生まれる世界との対話にあります。本企画を通してその原点にたどり着き、次の半世紀へ踏み出すための一歩につなげたいと考えます。

Johann Wolfgang von Goethe

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

1749年、フランクフルトの裕福な家庭に生まれる。教育熱心な父により、幼少から様々な家庭教師がつく。ライプツィヒとシュトゥットガルトで法律を学ぶが、文学運動シュトゥルム・ウント・ドラングに参加。既婚女性への恋と葛藤を描いた書簡体小説『若きヴェルテルの悩み』(1774)によって一躍文名を高める。ヴァイマル公国に呼ばれて公職に就くも、イタリア旅行や1794年以降のシラー(1759-1805)との交流によって、二人でドイツ古典主義を築く。『色彩論』(1810)など自然科学にも造詣が深く、幅広い分野で著作を残す。1832年、ヴァイマルで没す。

STAFF

制作:永朋 企画制作:清流劇場・大阪ドイツ文化センター
宣伝美術:棟cursor(カーゾル:岡田ゆうや)

Workshop Data

●使用テキスト

『タウリス島のイフィゲーニエ』(ブレンストーミング)
作:ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ(Johann Wolfgang von Goethe)

●進行 田中孝弥

●開催日程&内容

第1回:2014年4月2日(水) 19:00~21:30

レクチャー①『ゲーテへの第一歩——人生と作品』
招聘講師:久山雄甫氏(神戸大学講師)
+ブレンストーミング①

第2回:2014年4月9日(水) 19:00~21:30

レクチャー②『ゲーテ自然学・色彩論とその系譜』
招聘講師:能勢伊勢雄氏(写真家、前衛映像作家、音楽・美術評論家、現代美術展企画)

第3回:2014年4月16日(水) 19:00~21:30

ブレンストーミング②

第4回:2014年4月23日(水) 19:00~21:30

ブレンストーミング③

第5回:2014年5月7日(水) 19:00~21:30

レクチャー③『ゲーテの演劇と現代』
招聘講師:高橋義人氏(平安女学院大学国際観光学部教授)
+ブレンストーミング④

第6回:2014年5月14日(水) 19:00~21:30

ブレンストーミング⑤

第7回:2014年5月21日(水) 19:00~21:30

レクチャー④『ゲーテ作品の演劇上演について——「タウリス島のイフィゲーニエ」を中心に』
招聘講師:市川明氏(大阪大学名誉教授)
+最終プレゼンテーション

●定員 レクチャーの受講:25名 ブレンストーミング:15名

●参加費 無料

●対象 世界市民ゲーテ、あるいはドイツ文学に興味のある方。
また、俳優・演出・スタッフ等。

●応募資格 年齢・性別・国籍不問。ただし、日本語が話せる方。

※特に制限はありませんが、ブレンストーミングについては応募者多数の場合、全日程(7日間)に参加出来る方を優先します。

●応募要項

お申し込みは下記の内容を劇団メール宛て(info@seiryu-theater.jp)に、お知らせ下さい。

①お名前・所属 ②年齢 ③連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)

④簡単な略歴と応募動機 ⑤参加希望の形態を下記より選択

〈参加希望の形態〉

A:レクチャーの受講&ブレンストーミングへの参加

B:レクチャーのみ受講

C:レクチャーの受講&ブレンストーミングの聴講

●応募締め切り日 3月26日(水)必着

●参加者への課題

ブレンストーミングへ参加される方には使用テキストをお送りしますので、事前に読了し、自分なりの上演プランや表現プランを考えてきてください。また可能な限り、清流劇場の公演「群盗/東京/2020」(3月21日~23日/伊丹アイホール)をご覧頂いてから参加してください。(応募の際、ご覧になっていなくてもかまいません。)

●お問い合わせ

清流劇場 Tel&Fax:06-6429-8387 Homepage: http://seiryu-theater.jp
E-Mail: info@seiryu-theater.jp

大阪ドイツ文化センター 文化部(西村)

Tel:06-6440-5900 Fax:06-6440-5901

E-Mail: sbpo@osaka.goethe.org

●会場

大阪ドイツ文化センター
(Goethe-Institut Osaka)

〒531-6035 大阪市北区大淀中1-1-88-3502

梅田スカイビル・タワーイースト35階

Tel:06-6440-5900 Fax:06-6440-5901

Homepage: http://www.goethe.de/osaka

※地下鉄御堂筋線梅田駅・5番出口(ヨドバシカメラ前)より、徒歩8分。

※阪急梅田駅・茶屋町口出口より、徒歩8分。

※JR大阪駅・中央北口出口より、徒歩6分。

グランフロント大阪西側に地下歩道があります。



清流劇場+大阪ドイツ文化センター共催事業

世界市民

ゲーテをめぐる レクチャー&ブレインストーミング

2014年

第1回:4月2日(水)、第2回:4月9日(水)、第3回:4月16日(水)、第4回:4月23日(水)

第5回:5月7日(水)、第6回:5月14日(水)、第7回:5月21日(水)

Das Höchste, wozu der
Mensch gelangen kann,
ist das Erstaunen.



GOETHE INSTITUT 50th Anniversary 1964-2014
大阪ドイツ文化センター設立50周年記念

レクチャー講師

Yuko HISAYAMA

久山 雄甫

神戸大学講師。1982年生。2013年京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程指導認定退学。ダルムシュタット工科大学博士(哲学)。ダルムシュタット哲学実践研究所客員研究員、日本学術振興会特別研究員をへて、現在、神戸大学人文学研究科講師、京都女子大学非常勤講師。専門分野はドイツ思想史(ゲーテ研究)、日欧文化比較論。



Isao NOSE

能勢 伊勢雄

写真家、前衛映像作家、音楽・美術評論家、現代美術展企画。1947年生まれ。さまざまな表現の交錯する場として、1974年に老舗Live House [PEPPER LAND]を設立。岡山市・倉敷市連携文化事業「スペクトル能勢伊勢雄1968-2004」展にて、長年にわたる脱領域的、学際的な活動のすべてがはじめて広く紹介された。アートビोटープ那須「山のシュレ」での講師を2009年から現在まで務め、2011から3年間「ゲーテ色彩論・形態学」を講義する。その他、武蔵野美術大学、九州大学大学院などで多ジャンルの講義を行う。2009年より銀塩写真技術の継承を目的とした銀塩写真家集団「Phenomena」を設立、主宰。主著は「スペクトル能勢伊勢雄1968-2004」(和光出版刊)、『新・音楽の解説』DUBOOKS刊行 等。

写真：二期リポート提供

2014年秋予定 於：ギャラリーノマル(大阪)

①11/14-11/26 能勢伊勢雄 写真展—ゲーテ形態学から
②11/29-12/13 ワークショップと展示—ゲーテ色彩論から
<http://www.nomart.co.jp/anv25>

Yoshito TAKAHASHI

高橋 義人

平安女学院大学国際観光学部教授・京都大学名誉教授。ゲーテを中心にしてヨーロッパ文明の批判的検証を進める。著書に『形態と象徴—ゲーテと緑の自然科学』(1988年・岩波書店)、『ドイツ人のこころ』(1993年・岩波新書)、『魔女とヨーロッパ』(1995年・岩波書店)、『グリム童話の世界』(2006年・岩波新書)等がある。日本学術会議連携会員、Gesellschaft für interkulturelle Germanistik (国際異文化交流独文学会)副会長、西日本フンボルト会理事など。

Akira ICHIKAWA

市川 明

大阪大学名誉教授。1948年大阪府豊中市生まれ。大阪外国語大学外国語学部ドイツ語専攻卒業。同修士課程修了。プレヒトやハイナリーミュラーを中心にドイツ現代演劇を研究している。多くのドイツ演劇を翻訳し、関西で上演しているほか、NHKドイツ語講座の講師として、本年も「アンコールまいにちドイツ語」を担当している。近著に『プレヒト 音楽と舞台』(花伝社)、Verfremdungen(Rombach Verlag)などがある。

メンバー募集 清流劇場2014年10月公演に向け、メンバーを募集します。清流劇場の活動に興味のある方、俳優・スタッフに興味のある方は、劇団まで、一度ご連絡下さい。
連絡先: info@seiryu-theater.jp

驚きは、人間の到達できる最も高みである。

Das Höchste, wozu der Mensch gelangen kann, ist das Erstaunen.

ゲーテが数々の偉業を残した背景には、新しいモノや未知なるモノへの好奇心があったように思われます。その好奇心の赴く先は、言葉であったり、文化であったり、自然科学であったりしたわけです。私たちがゲーテの人物像に迫りながら、様々なことに驚き、自分を豊かにする時間を過ごしたいと思います。

「外国語を知らない者は自分の母語についても知らない」。ゲーテの言葉です。学生時代、英語に苦勞したボクとしては、『何てヒドイことを言うんや…。英語は喋られへんけど、日本語は喋れるわい』と、思ったものでした。でも、時間が経ち、どうやらこの言葉の持つ意味は別にあるように思えてきました。

「なまじ、日本語が流暢に話せているからといって、それは本当に日本語が出来ることになるのだろうか? ボクは本当に日本語を理解出来ているのだろうか?」という問いです。「自分の母語を客観視出来ているか?」という問いかけです。そのためには、「外」から自分の母語を見つめる必要があるんじゃないのか?ということ、ゲーテは言いたかったのではないかと、ボクは解釈しています。ボクはボクの言葉を客観視できているのか?…もう少し解釈を広げて、ボクはボクの「演劇という表現活動」を客観視出来ているのか? ああ…頭が痛いです。「もっと、面白い芝居を!」って思いながら、日々過ごしているワケですが、そうそう、うまくはいきません。

あ、でも、ゲーテの最期の言葉は、「もっと光りを!」でしたね。なかなか、人生はうまくいきません。だったら、せめて面白い人生になるようにしたいと思います。

そして、今回のワークショップが、参加される皆さん一人一人にとって、「面白い人生」を過ごすためのちょっとしたヒントを見つけられる場になりたいと思います。——田中孝弥

